

三鷹駅周辺を舞台とした街中アート展



JR中央線沿線で様々なアートイベントを展開しているTERATOTERA(テラトテラ)が、街中でのアート展をはじめ、パフォーマンスやトークイベントを盛り込んだ展覧会「TERATOTERA祭り」を開催します。2011年度から始まり8回目となる今回は、11月16日、17日、18日の3日間、三鷹駅周辺の空き店舗など7ヶ所を舞台に開催！
気鋭のアーティストたちが、インスタレーションやパフォーマンス、絵画や映像などの作品を発表します。TERATOTERAならではの作品体験をぜひお楽しみください。

祭り

TERATOTERA

Walls -わたしたちを隔てるもの-

2018

【日程】平成30年11月16日(金)、17日(土)、18日(日) 11:00~18:00
※スペースエルベは18:30まで ※Talk Showは20:30まで

【会場】JR三鷹駅北口周辺施設、空き店舗など7カ所(会場は全て三鷹駅から1分~15分の範囲です) 【参加費】無料

【参加アーティスト】遠藤麻衣、キュンチョメ、小林清乃、地主麻衣子、砂連尾理、高田冬彦、Tuan Mami、林千歩、maadm、本間メイ

開催地

MAP

三鷹駅を中心に、南口と北口へ徒歩 15 分圏内



Google MAP

Art

気鋭のアーティストによる、
インスタレーションや絵画、映像、
パフォーマンス作品などの作品展示。

[アート展示] 11月16日(金)、17日(土)、18日(日)

11:00~18:00 ※スペースエルベは 18:30 まで

- 参加アーティスト：小林清乃、高田冬彦、Tuan Mami、林千歩、maadm、本間メイ
- 会場：三鷹駅周辺施設、空店舗など
- 参加費：無料

[映像上映 1] 11月16日(金)、17日(土)、18日(日)

- タイトル：完璧なドーナツをつくる
- 参加アーティスト：キュンチョメ
- 上映時間：85分(インターバル 5分)
- 会場：スペースエルベ

(東京都武蔵野市中町 1-2-9 サンローゼ武蔵野2階)
●観覧料：無料(予約不要)
※映像上映のほかに会期中にイベントを予定。
上映時間や最新の情報はウェブサイトをご覧ください。

[映像上映 2] 11月16日(金)、17日(土)、18日(日)

- 11:30~、13:15~、15:00~、16:45~
- タイトル：欲望の音
 - 参加アーティスト：地主麻衣子
 - 上映時間：69分
 - 会場：芸能劇場 小劇場(東京都武蔵野市中町 1-15-10)
 - 観覧料：無料(予約不要)

Performance

昨年、「アイ・アム・ノット・フェミニスト!」を発表した
遠藤麻衣による、3日限りの新作パフォーマンス!

- 11月 16日(金) 13:00~、15:30~、17:30~
17日(土) 13:30~、16:00~
18日(日) 13:00~、15:30~、17:30~
(各回約 20分)

- タイトル：未定
- 参加アーティスト：遠藤麻衣
- ゲスト出演：神村恵
- 会場：HYM(東京都武蔵野市中町 1-5-8 ハモニカ横丁ミタカ)
- 観覧料：無料(予約不要)

障がい者や高齢者、避難所生活者などのプロジェクトを手がけ、
アートと社会を繋ぐ活動を展開しているダンサー・振付家の
砂連尾理が今回は妊婦さんとの対話からなる
ワークショップ形式のパフォーマンスを行います。

11月18日(日) 14:00 ~ 15:00

- タイトル：妊婦さんと踊る
- 出演：古原彩乃(妊娠7ヶ月)、砂連尾理
- 参加アーティスト：砂連尾理
- 会場：武蔵野タワーズ スカイゲートタワー前広場
(東京都武蔵野市中町 1-12-10)
- 演出：砂連尾理
- 音楽：片岡祐介
- 参加費：無料

※踊りたい妊婦さん募集中! お申込み・詳細はこちら→teratoterajp/events/matsuri2018/

Talk Show

今回の TERATOTERA 祭りのテーマに掲げた
「Walls-わたしたちを隔てるもの-」を軸に、参加アーティストが登壇し、
自身が抱えている壁、その壁との向き合い方など語り合います。

11月17日(土) 18:30~20:30

- 出演：全参加アーティストを予定
- 会場：三鷹中央ビル 2階(東京都三鷹市下連雀 3-28-20)
- 入場料：無料(予約不要)

※プログラムは内容が変更になる可能性があります。



キュンチョメ
スペースエルベ
(武蔵野市中町 1-2-9
サンローゼ武蔵野 2階)

B

C 砂連尾理
武蔵野タワーズ スカイゲートタワー前広場
(武蔵野市中町 1-12-10)

D

遠藤麻衣
HYM(武蔵野市中町 1-5-8 ハモニカ横丁ミタカ)

E 林千歩
北口交番横
(武蔵野市中町 1-14)

F

F1 Tuan Mami
武蔵野芸能劇場 小ホール
(武蔵野市中町 1-15-10 2階)

F2 地主麻衣子
武蔵野芸能劇場 小劇場
(武蔵野市中町 1-15-10 3階)

JR 中央本線
三鷹駅
Mitaka Station

八王子 ◀

▶ 新宿

南口

三鷹駅前郵便局

三鷹駅前

コミュニティプラザ西

高田冬彦
みたかスペースあいB
(三鷹市下連雀 3-28-20 1階)

G-1

**G-2 本間メイ
maadm**
三鷹中央ビル 2階
(三鷹市下連雀 3-28-20)

トークショー
三鷹中央ビル 2階
(三鷹市下連雀 3-28-20)

三鷹産業プラザ東

A 小林清乃 (こばやし きよの)

1982年生まれ。日藝映画学科卒。市井の人々が残した記録物から、特に日記や手紙などに書かれた言葉、話された会話に関心を持ち、パーソナルな語りを集め展開していくことで、個人の視点からみた世界と俯瞰的または普遍的な観察点からみた世界との内的関係を探る。2017年、第二次世界大戦中に書かれた手紙の音声化を手掛けたボイスサウンド作品『Polyphony1945』を制作。今年夏はポルトランドのレジデンスプログラム End of Summer に参加。現地での極私的な経験をもとに「死者との遭遇」を主題とした随筆を執筆。また同じテーマでインタビュープロジェクトを行う。



『Polyphony 1945』2017

B キュンチョメ (きゅんちよめ)

男女のアートユニット。メンバーはホンマエリとナブチ。世の中に足りないものは「キュンキュン」と「チョメチョメ」だ、ということとユニット名は「キュンチョメ」。「キュンキュン」と「チョメチョメ」を増やす活動をしている。



『壁を変えた話』2018

C 砂連尾尾 (じゃれお おさむ)

振付家、ダンサー。91年、寺田みさことダンスユニットを結成。02年、「TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2002」にて、「次代を担う振付家賞」(グランプリ)、「オーディエンス賞」をW受賞。04年、京都市芸術文化特別奨励者。08年度文化庁・在外研修員として、ドイツ・ベルリンに1年滞在。近年はソロ活動を中心に、ドイツの障がい者劇団テイクバとの「Thikwa+Junkan Project」、京都・舞鶴の高齢者との「とつとつダンス」、宮城・開上の避難所生活者への取材が契機となった「猿とモルタル」等を発表。著書に「老人ホームで生まれた「とつとつダンス」ーダンスのような、介護のようなー」(晶文社)。



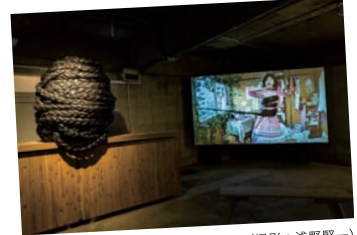
『とつとつダンス part2-愛のレッスン』2015



Artists' Profile

G-1 高田冬彦 (たかた ふゆひこ)

現代美術家、映像作家。1987年生まれ。作者本人が自宅アパートで繰り広げる誇大な想像的な映像作品が近年の主な作風である。主な個展に『DREAM CATCHER』(Alternative Space Core/2018年)、『LOVE PHANTOM』(Art Center Ongoing/2017年)、『STORYTELLING』(児玉画廊/2016年)など。主なグループ展に『MOT アニュアル 2016 | キセイノセイキ』(東京都現代美術館/2016)など。
<http://fuyuhikotakata.com/>



『Dream Catcher』2018 (撮影: 浅野賢一)

F-1 Tuan Mami (とうあん まみ)

1981年生まれ、ハノイ在住。彼は活動の中で、インスタレーションやビデオ、パフォーマンスやコンセプトアートなどを用い、大胆でますます現実的な試みを通して、絶えず新しいメディアや表現方法を探索している。近年では、「Protest Against the Void」(Defibrillator Gallery, シカゴ・2013)、「24 Hours Tension」(POST, ロサンゼルス・2013)、「In a Breath-Nothing Stands Still」(Art Rotterdam, ロッテルダム・2016)、「Heritage art space, ハノイ・2017」(Factory art space, ホーチミン・2018)など、Mamiは多数の個展を行っている。また、「Tokyo Story2010」(トーキョーワンダーサイト、東京・2011)、「Freedom is the Motorbike」(ロサンゼルス・2013)、「Changwon Sculpture Biennale」(韓国・2014)、「Plastic Myths」(ACC, 光州・2015)、「Krisis」(ノッティンガム・2016)、「The Unauthorised Medium」(アムステルダム・2018)など、多くのグループ展にも参加している。クリエイターとして活動する傍ら、Nha San Collective(ハノイ・2013)の共同創業者であり、San Francisco Art Instituteの客員教授なども務めている。



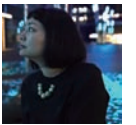
『La Toilette』2017



『Protest Against the Void 3』2015

G-2 本間メイ (ほんま めい)

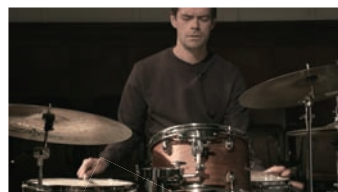
1985年東京都生まれ。バンドン(インドネシア)と東京都を拠点に活動。2011年チェルシヤ芸術大学ファンアート科修了。近世から現代にいたるインドネシアと日本の歴史的關係のリサーチを基に、資料やアーカイブといった公的なドキュメントのみならず、小説や日用品、作家自身が現地を歩き、映像を撮影するなど多角的なアプローチを取り入れ、現在にも通ずる社会・政治的な問題や多国間における関係性を考察する映像作品やインスタレーションを発表している。近年は見過ごされがちな女性に関する歴史を主に扱う。



『Anak Anak Negeri Matahari Terbit - 日出ずる国の子どもたち』2018
『都美セレクション グループ展 2018』展示風景
東京都美術館 2018(撮影: 坂田峰夫)

F-2 地主麻衣子 (じぬし まいこ)

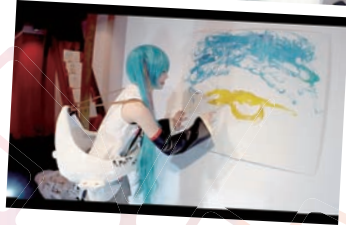
1984年神奈川県生まれ。多摩美術大学絵画専攻修了。個人的な物語をテーマとしたドローイングや小説の制作から発展し、映像、インスタレーション、パフォーマンスなどを総合的に組み合わせ「新しい種類の文学」を創作する。主な個展に「欲望の音」(HAGIWARA PROJECTS, 2018)「53丁目のシルバークロリー」(Art Center Ongoing, 2018)。主なグループ展に「黄金町バザール展」(黄金町エリア, 2017)など。



『欲望の音』2017

E 林千歩 (はやし ちほ)

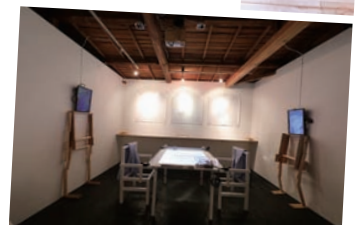
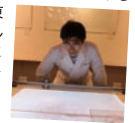
2018年東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程美術専攻修了、博士号取得。映像作品を中心に様々なメディアを使い表現する。母と共に制作した衣装と過度なメイクを纏い、主に作者自身が何者かに扮し出演する。映像はゲリラ的に撮影されたものが多く、不気味なものや笑いを組み合わせた様な何処か猟奇的な内容である。時に鑑賞者をも巻き込み、そこで生まれる何かを居合わせた人たちに聞かせる。主な個展に2017年「初美カコ-Project MUSE-」(Art Center Ongoing/東京)2019年には展覧会「六本木クロッシング 2019 展: つないでみる」(森美術館)に出品予定。



『初美カコ-Project MUSE-』2017

G-2 maadm (まっどえむ)

2011年、武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻彫刻コース修了。感情のぶつかり合いや行き違いをテーマに、自作の装置などを用いた作品を展開している。「ごっこあそびに想いのせて」(Art Center Ongoing, 東京, 2017)など数々の個展を開催するほか、「ゆるんだ遠近法」(AIT, 東京, 2017)、「黄金町バザール 2014」(黄金町エリアマネジメントセンター, 2014年、横浜)などのグループ展に参加。



『ごっこあそびに想いのせて』2017



Walls -わたしたちを隔てるもの-

「平成最後の～」というフレーズを耳にすることが多くなった。今回の「TERATOTERA 祭り」も「平成最後」。だから、少しでも平成という時代を振り返ってみたい。

メディアの「平成」評価はおおむね辛口だ。バブル景気がはじけた後の「失われた 20 年」、阪神・淡路大震災に続く東日本大震災という未曾有の災厄、そして収束の目処さえつかない東京電力福島第一原子力発電所事故と振り返れば、低迷した時代の様相は露わだ。

海外でも、「9.11」に端を発したテロと報復戦争が連鎖し、多くの人々が難民となった。世界の諸国は協調から自国優先へと転じ、対立と亀裂が深まっている。トランプ米国大統領が訴える国境の「壁」は、そうした現実のグロテスクな戯画といえそうだ。

今回、「TERATOTERA 祭り」のコンセプトをめぐって、わたしたちひとりひとりが直面する課題を語り合った。貧困や障害による格差と差別、ジェンダーや性的自認の多様性への忌避ないしは拒否、国籍や思想に対する憎悪を隠さない言動……。ひとびとを分断する動きに通底するキーワードとして浮かび上がったのが「壁」だった。すでに社会的な課題として顕在化した「障壁」もあれば、視覚化されていない「見えない壁」もある。意識化されないまま心地よくもたれかかっている「柔らかな壁」が、わたしたちの内側にもあるのではないかと。そうした論議をへて、「Walls-わたしたちを隔てるもの-」が今回のコンセプトとなった。

ここで想起したいのが、1989 年（まさに平成元年）、ベルリンを分断していた「壁」が、それを越えようとする市民の熱量によって撤去されるにいたった、という事実。それが契機となって「冷戦」が終結し、「壁のない世界」への期待が高まった。付け加えれば、その2年前、「壁」の西側でライブを敢行したアーティストがいた。イギリスのミュージシャン、デイヴィッド・ボウイだ。壁越しに響くボウイの音楽が、東側の市民をささやかにであれ揺さぶったことは想像に難くない。

アートは課題を指し示す役割を果たすことができる。今回の「TERATOTERA 祭り」で私たちは、アーティストが「壁」に向き合うことを期待し、それに協力したいと思う。厳然として存在する「壁」だけでなく、見えない「壁」、さりげなくわたしたちの心に忍び込む「壁」。どのような「壁」が立ち現れるのか、不安を抱きつつ期待したい。

Teracollective



Teracollectiveとは

TERATOTERA のボランティアスタッフであるテラッコの歴代コアメンバー 16 名によって 2018 年に設立しました。メンバーの職業、年齢、性別は様々ですが、アーティストやアートの現場を支援し共に作り上げていきたいという強い想いを共有しています。TERATOTERA 祭り 2018 は、Teracollective が手がける初めてのプロジェクト。今回を皮切りに、裏方だけのコレクティブとして、アートにまつわる様々な人や現場を支え盛り上げていきます。

TERATOTERA(テラトテラ)とは？

TERATOTERA (テラトテラ) は、東京都とアーツカウンシル東京と、吉祥寺に拠点を置いて現在進行形の芸術をフィーチャーしている一般社団法人 Ongoing が協働して、平成 21 年度より JR 中央線高円寺駅～吉祥寺～国分寺駅区間をメインとした東京・杉並及び武蔵野、多摩地域を舞台に展開する、地域密着型アートプロジェクトおよびその発信機関の総称です。



東京アートポイント計画とは？

東京アートポイント計画は、東京の様々な人・まち・活動をアートで結ぶことで、東京の多様な魅力を地域・市民の参画により創造・発信することを目指し、「アーツカウンシル東京」の一環として東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団が展開している事業です。
<https://www.artscouncil-tokyo.jp/ja/>

ボランティアの募集

「TERATOTERA 祭り」をサポートするボランティアスタッフ(テラッコ)を募集しています。作業内容は、作品の制作補助、搬入出、作品監視や来場者への作品説明などです。年齢性別不問、1日だけ参加という方も大歓迎！ご興味のある方は下記までぜひご連絡ください。

問い合わせ：TERATOTERA 事務局

〒180-0002 東京都武蔵野市吉祥寺東町 1-8-7
Art Center Ongoing 内



Tel
090-4737-4798



E-Mail
info@teratotera.jp



Web
teratotera.jp



Twitter
twitter.com/teratotera



Facebook
facebook.com/teratotera

※お預かりした個人情報は本事業の運営及びお知らせのみに使用します。

【主催】東京都、アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)、一般社団法人 Ongoing
【後援】三鷹市、武蔵野市
【協力】HYM(ハモニカ横丁ミタカ)、UR 都市機構、まちづくり三鷹、三菱地所コミュニティ株式会社